

LUXMAN

CONTROL AMPLIFIER

C-1000f

このたびは、ラックスマンのコントロール・アンプリファイヤー C-1000fをお求めいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前にこのオーナーズマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いいただくことで本機の性能が十分に発揮され最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただけることと思います。

なお、お読みになった後は、保証書・安全上のご注意と共に大切に保管してください。

目 次

使用上の注意	3
各部の名称と用途	4
リモコンの名称と用途	10
リモコンについて	23
接続図／接続方法	24
C-1000f BLOCK DIAGRAM	28
規格	31
アフターサービスと品質保証について	32
修理に出される前に	33

使用上の注意

アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。

とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなどの高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

入出力機器接続時のご注意

本機と CD プレーヤー、チューナーなどの入力機器およびパワーアンプなどの出力機器を接続するときには、本機と入力機器および出力機器の電源スイッチを必ず切っておいてください。

本機と入力機器および出力機器に電源が入っていると、大きな雑音が発生することがあります。

また、本機の入出力端子に差し込むピンプラグはしっかりと差し込んでください。入力機器の出力端子と出力機器の入力端子に差し込むピンプラグも同様です。

ピンプラグのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因になります。

アンプ電源 ON 後すぐには音が出ません

本機には、電源オン後アンプが安定した状態になるまでの間、入力回路および出力回路を切り離すためのタイム・ミューティング回路が組み込まれていて、オペレーション・インジケーターが青色に点滅かつ WARMING UP 表示をして準備動作中であることを示します。

このタイム・ミューティング回路が動作している間に本機の音量ボリュームを大きな値に設定していると、動作状態になったときに急に大きな音が出てくることになります。

本機の音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてからお好みの音量に調節してください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れのひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。

なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

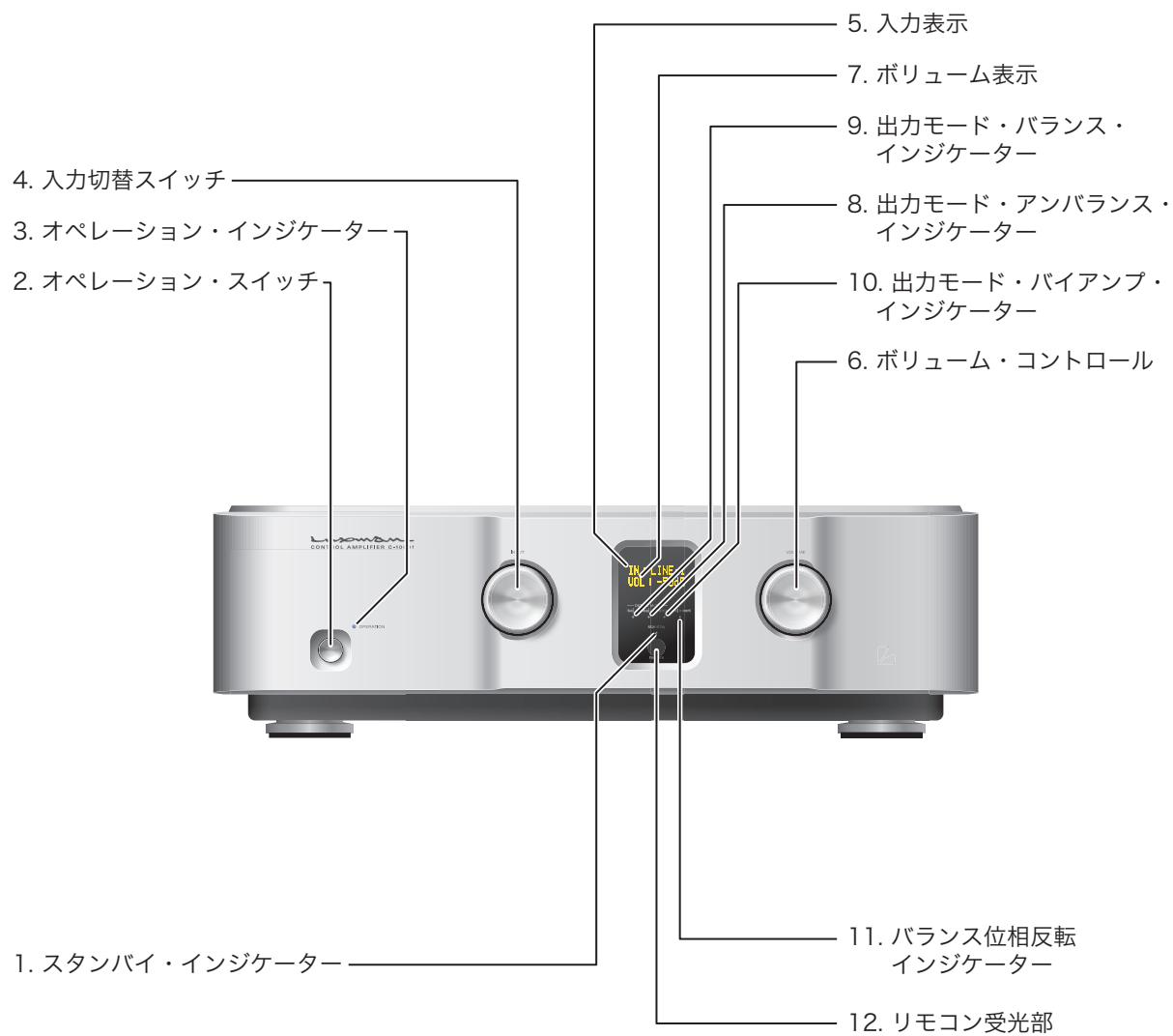
安全上のご注意



本機は重いので開梱や持ち運び、設置は、必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

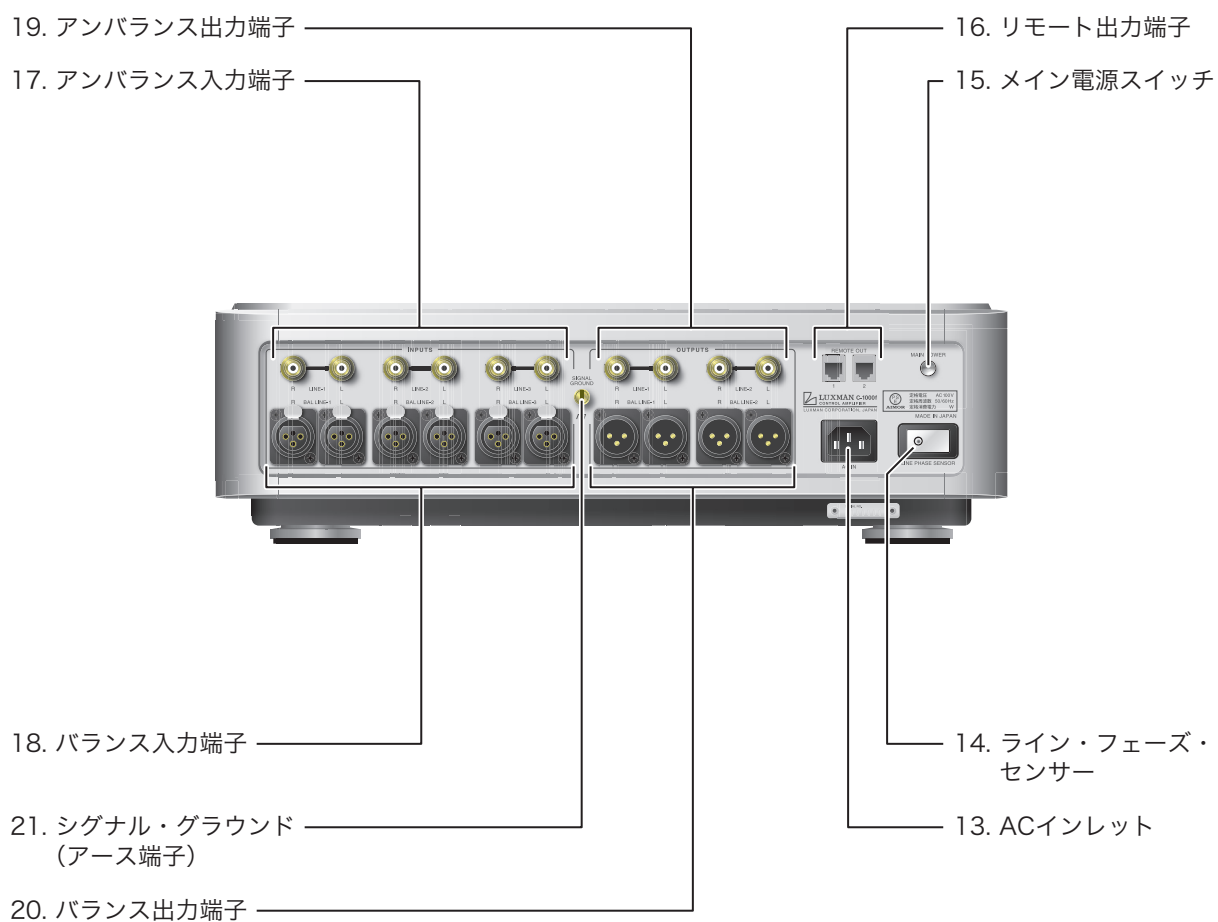
各部の名称と用途

フロントパネル

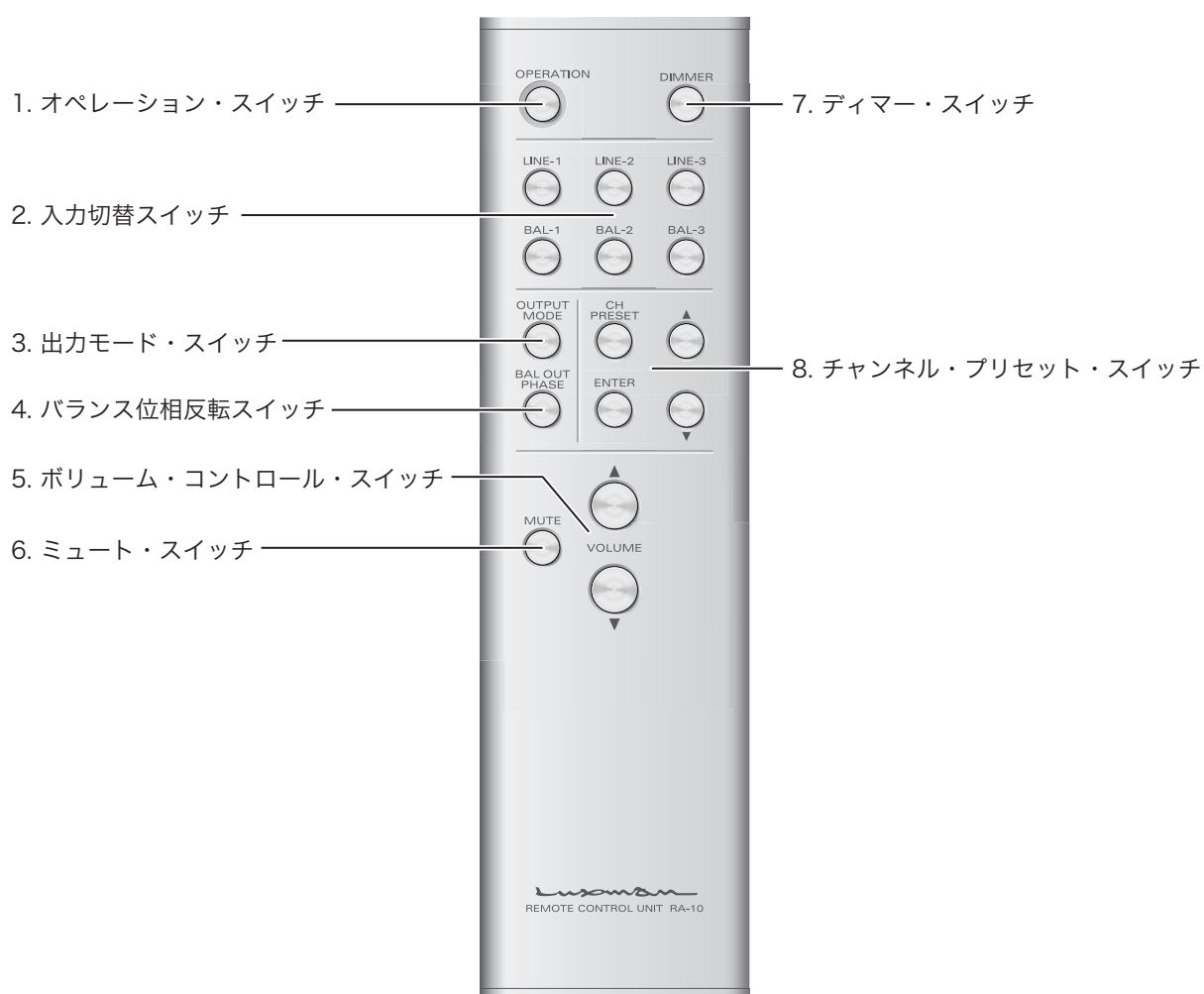


各部の名称と用途

リアパネル



リモコンの名称と用途



リモコンの名称と用途

1. オペレーション・スイッチ／OPERATION

スタンバイ状態のときにこのスイッチを押すとスタンバイ・インジケータが消灯し、オペレーション・インジケータが点滅を開始しかつ WARMING UP が表示され準備動作に入ります。一定時間（約 30 秒）経過するとオペレーション・インジケータが点灯し各モードの設定が表示され、動作状態となります。動作状態のときにもう一度このスイッチを押すとスタンバイ状態になります。

WARMING UP

2. 入力切替スイッチ／LINE-1, LINE-2, LINE-3, BAL-1, BAL-2, BAL-3

リアパネルにあるアンバランス入力端子 LINE-1, LINE-2, LINE-3 とバランス入力端子 BAL LINE-1, BAL LINE-2, BAL LINE-3 を選択する入力セレクトスイッチです。

- ・ LINE-1 を押すと、LINE-1 が選択されます。
- ・ LINE-2 を押すと、LINE-2 が選択されます。
- ・ LINE-3 を押すと、LINE-3 が選択されます。
- ・ BAL-1 を押すと、BAL LINE-1 が選択されます。
- ・ BAL-2 を押すと、BAL LINE-2 が選択されます。
- ・ BAL-3 を押すと、BAL LINE-3 が選択されます。

IN : LINE-1
VOL : -71dB

IN : BAL.-1
VOL : -71dB

このスイッチを切替えると入出力ミューティング回路が作動し、約 0.8 秒間、音がでません。

3. 出力モード・スイッチ／OUTPUT MODE

アンバランス出力、バランス出力、バイアンプ出力の 3 種類の出力モードを切替えるスイッチです。

このスイッチを押す度に、UNBAL → BAL → BI-AMP → UNBAL……と変化します。

・ アンバランス出力／UNBAL

アンバランス出力の LINE-1 と LINE-2 から音楽が出力されます。

・ バランス出力／BAL

バランス出力の BAL LINE-1 と BAL LINE-2 から音楽が出力されます。

・ バイアンプ出力／BI-AMP

アンバランス出力の LINE-1 と LINE-2 から音楽が出力されます。

LINE-1 L ch から L ch の LOW 用の音出力されます。

LINE-1 R ch から R ch の LOW 用の音出力されます。

LINE-2 L ch から L ch の HIGH 用の音出力されます。

LINE-2 R ch から R ch の HIGH 用の音出力されます。

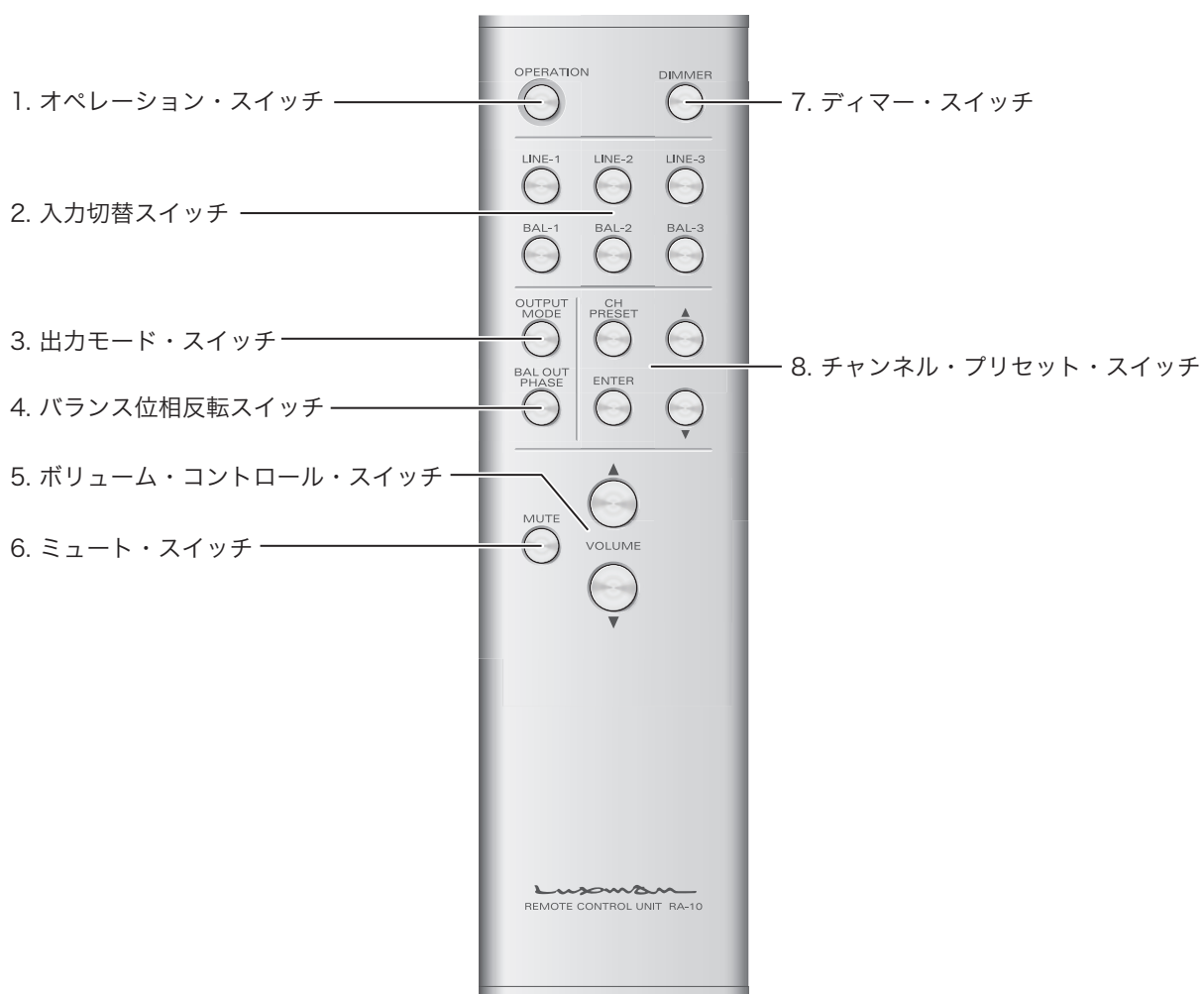
入力切替スイッチがバランスの場合、バイアンプ出力には切替できません。

入力切替スイッチをラインに切替えてから出力モードを切替えてください。工場出荷時は、アンバランス出力（UNBAL）に設定されています。

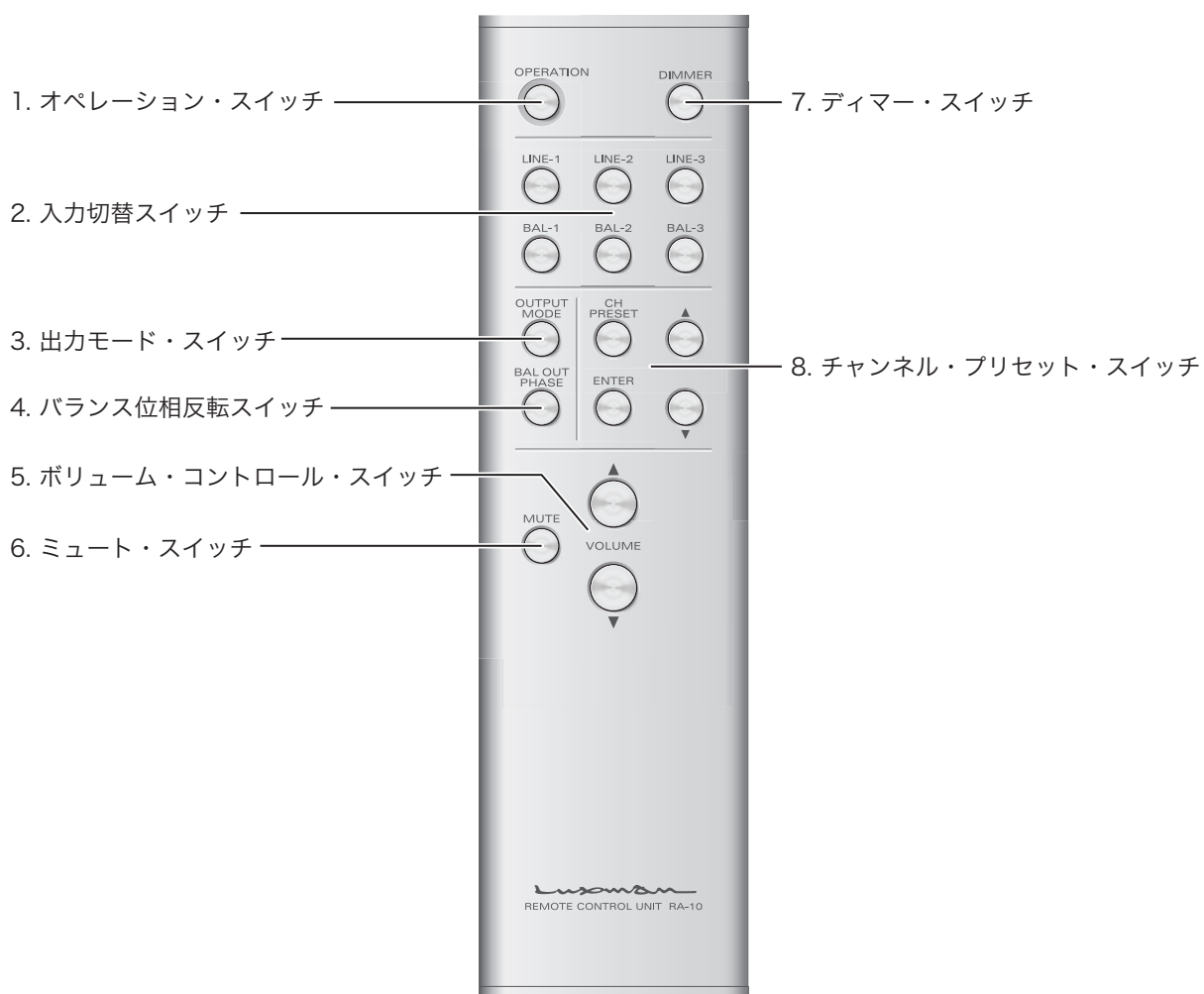
このスイッチを切替えると入出力ミューティング回路が作動し、約 0.8 秒間、音がでません。

出力モードごとにチャンネル・プリセットの設定値は記憶されます。

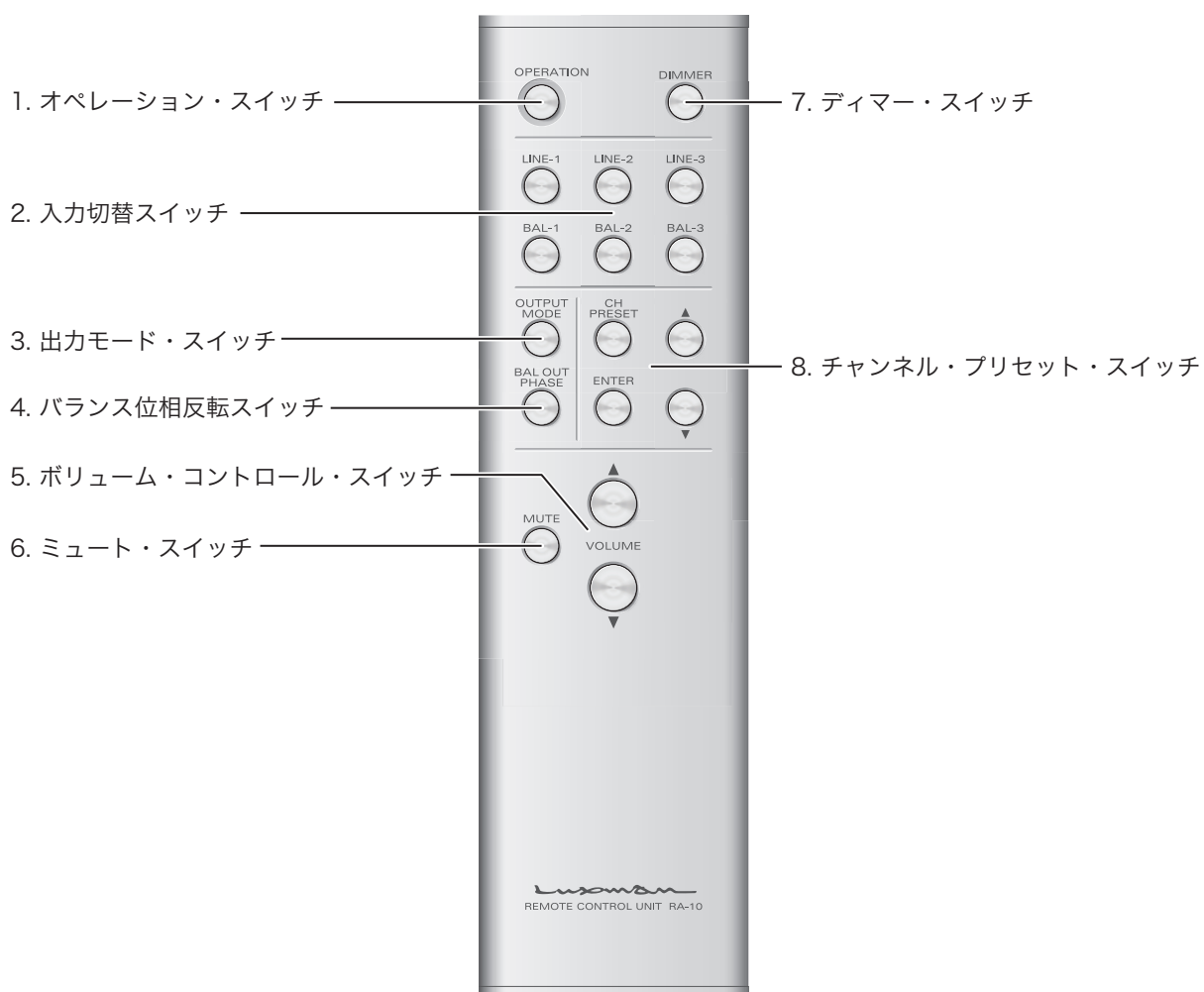
リモコンの名称と用途



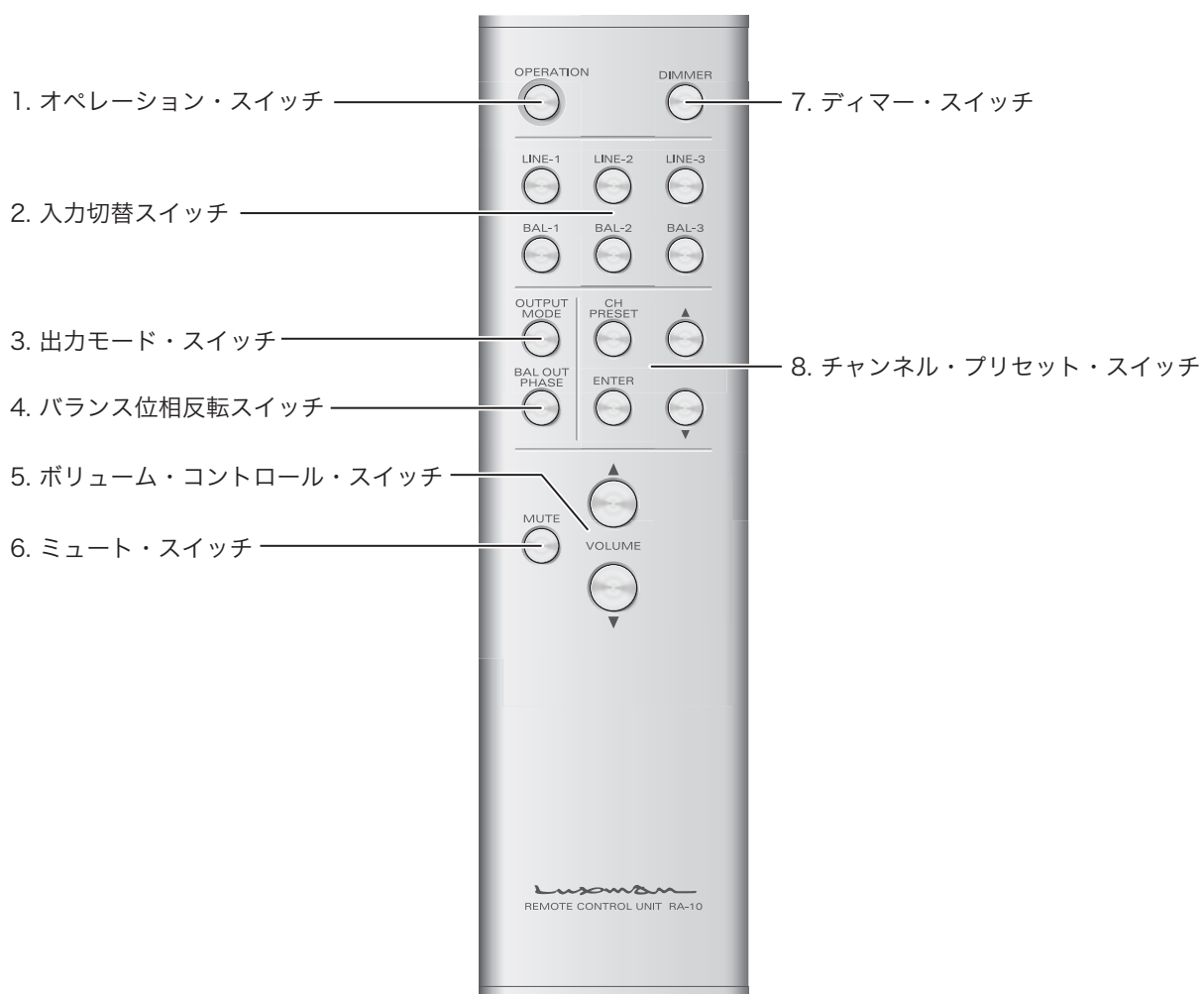
リモコンの名称と用途



リモコンの名称と用途



リモコンの名称と用途



リモコンの名称と用途

11. 各設定の記憶

オペレーション OFF 時に記憶される直前設定を下記に示します。

項目	設定／値	例
INPUT	直前設定	LINE-1
OUTPUT MODE	直前設定	BALANCE
VOLUME	直前値	-36dB
CH PRESET	各設定の直前値	L-CH -1dB, R-CH +1dB
BAL INVERT	直前設定	INVERT
DIMMER	直前設定	やや暗い

- ・ MUTE は記憶されずオペレーション OFF とともに解除されます。
- ・ オペレーション・スイッチを経由せずに直接メイン電源スイッチを OFF した場合は、ボリュームの値を除き同様に記憶されます。なお、ボリュームの値はミュート状態に設定されます。

12. リセット方法

全ての設定、調節値を出荷時の設定に戻すには、以下の操作を行います。

- (1) 本機をスタンバイ状態にします。
- (2) 本体のオペレーション・スイッチを 5 秒以上押し続け、オペレーション・スイッチを押した状態でリモコンのディマー・スイッチを押します。
これで操作完了です。

工場出荷時の設定

項目	設定／値
INPUT	LINE-1
OUTPUT MODE	UNBALANCE
VOLUME	--dB
CH PRESET	0dB
BAL INVERT	OFF
MUTE	OFF
DIMMER	MAX (最大輝度)

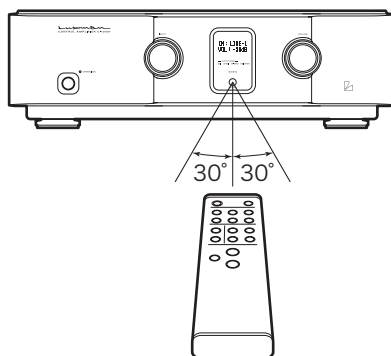
13. 禁止表示および注意

設定を変化させるときに、設定を変えることのできない場合があります。この場合、下表のようなエラー表示がでます。

現在の設定			変化しようとした設定	表示	注意
OUTPUT MODE	PHASE	INPUT			
UNBALANCE	NORMAL	LINE-1, -2, -3	BAL OUT PHASE	UNBALANCE MODE!!	アンバランス入力かつアンバランス出力のとき、位相は反転できません。
BI-AMP	NORMAL	LINE-1, -2, -3	INPUT SELECTOR BAL-1, -2, -3	BI-AMP MODE!!	OUTPUT MODE が BI-AMP のとき、バランス入力は選べません。
BI-AMP	NORMAL	LINE-1, -2, -3	BAL OUT PHASE	BI-AMP MODE!!	OUTPUT MODE が BI-AMP のとき、位相は反転できません。
UNBALANCE	NORMAL	BAL-1, -2, -3	OUTPUT MODE	IN: BAL-** VOL: -**dB (表示は変化しません)	バランス入力の場合、OUTPUT MODE を変化させても BI-AMP MODE にはなりません。

リモコンについて

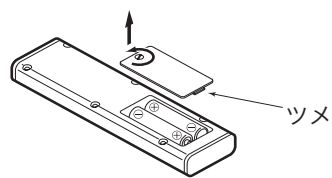
リモコンは、本機のリモコン受光部に向けて、図の範囲でお使いください。



有効距離 約5m

乾電池の入れ方

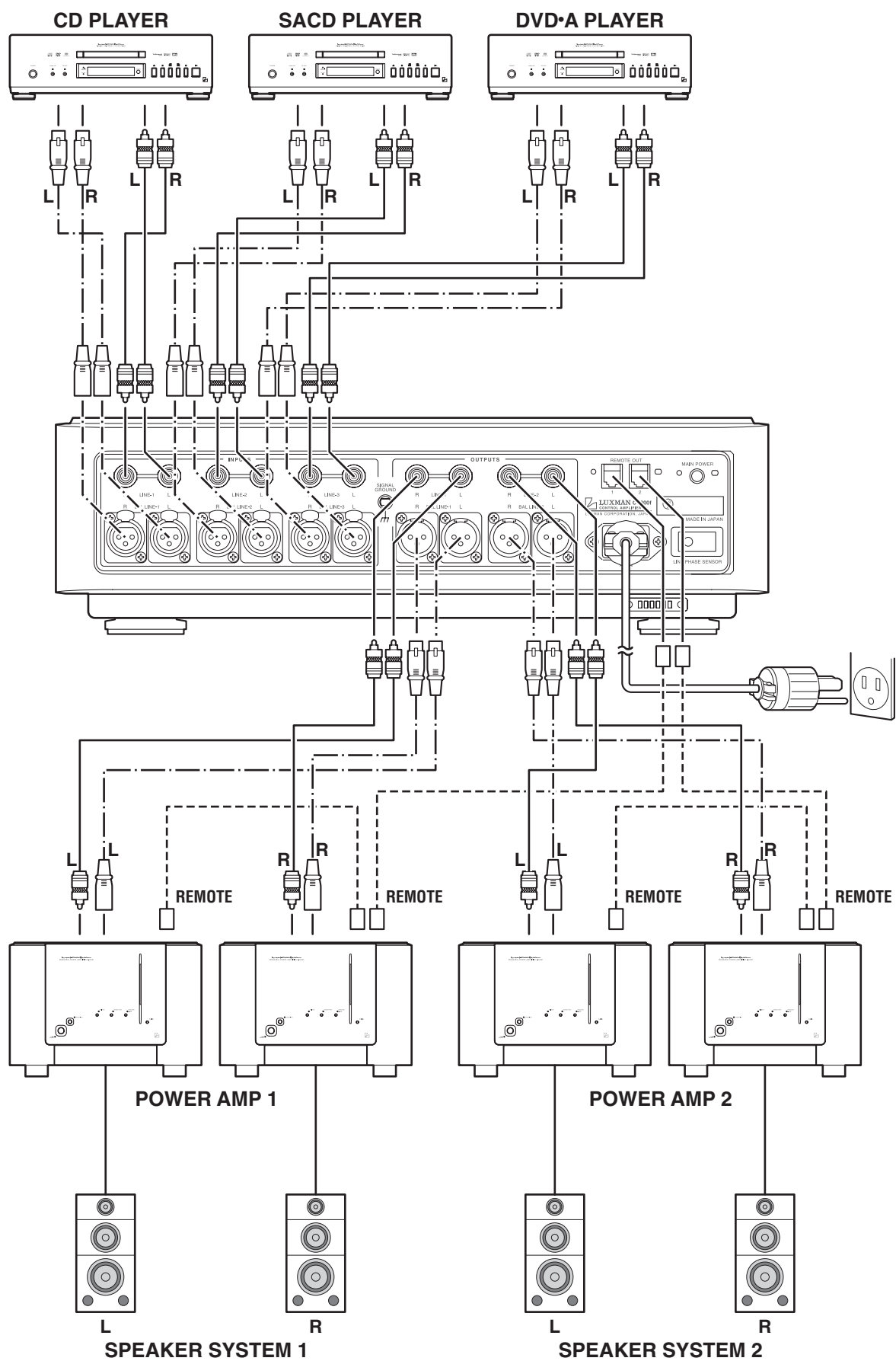
- (1) リモコンの裏面にあるバッテリー・カバーのネジをコイン等でゆるめてはずしてください。
- (2) バッテリー・ケースの中の図と同じように単4乾電池を入れます。
- (3) バッテリー・カバーのツメをリモコン本体の凹に差し込みバッテリー・カバーを閉じネジをコイン等でしめてください。



※乾電池が消耗してくると、有効距離が短くなったり、スイッチを押しても動作しません。このようなときは、乾電池を2本とも新しいものに交換してください。

接続図

通常ステレオ再生



接続方法

接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック側（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V コンセントに差し込んでください。

電源ケーブルを差し込むときには、ライン・フェーズ・センサーを指先で軽く触れ、インジケータが消える方向に差し込んでください。

マンションなどのコンセントでは、AC プラグを差し替えても点灯したまま、消えたままのことがあります。この場合、どちらの方向でもかまいません。

入力端子と CD プレーヤーなどの入力機器との接続

CD プレーヤーなどの入力機器の出力端子と本機の入力端子の間を、ピンプラグケーブルあるいはバランスケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグケーブルをご使用の場合は、ピンプラグケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

本機に接続する入力機器の出力インピーダンスが十分低い場合は、接続ケーブルの長さを特別気にする必要はありませんが、出力インピーダンスの高い入力機器と組み合わせてご使用の場合は、不必要な高域の減衰を避けるために、できるだけ短い接続ケーブルをお使いになることをおすすめします。

出力端子とパワーアンプなどの出力機器との接続

パワーアンプなどの出力機器の入力端子と本機の出力端子の間を、ピンプラグケーブルあるいはバランスケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグケーブルをご使用の場合は、ピンプラグケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

リモート出力端子とパワーアンプとの接続

B-1000f などラックスマンのパワーアンプのリモート入力端子と本機のリモート出力端子をパワーアンプに付属している専用リモートケーブル（極性はありません）で接続します。

これにより、本機のオペレーション・スイッチに連動して、パワーアンプの電源を ON/OFF することができます。

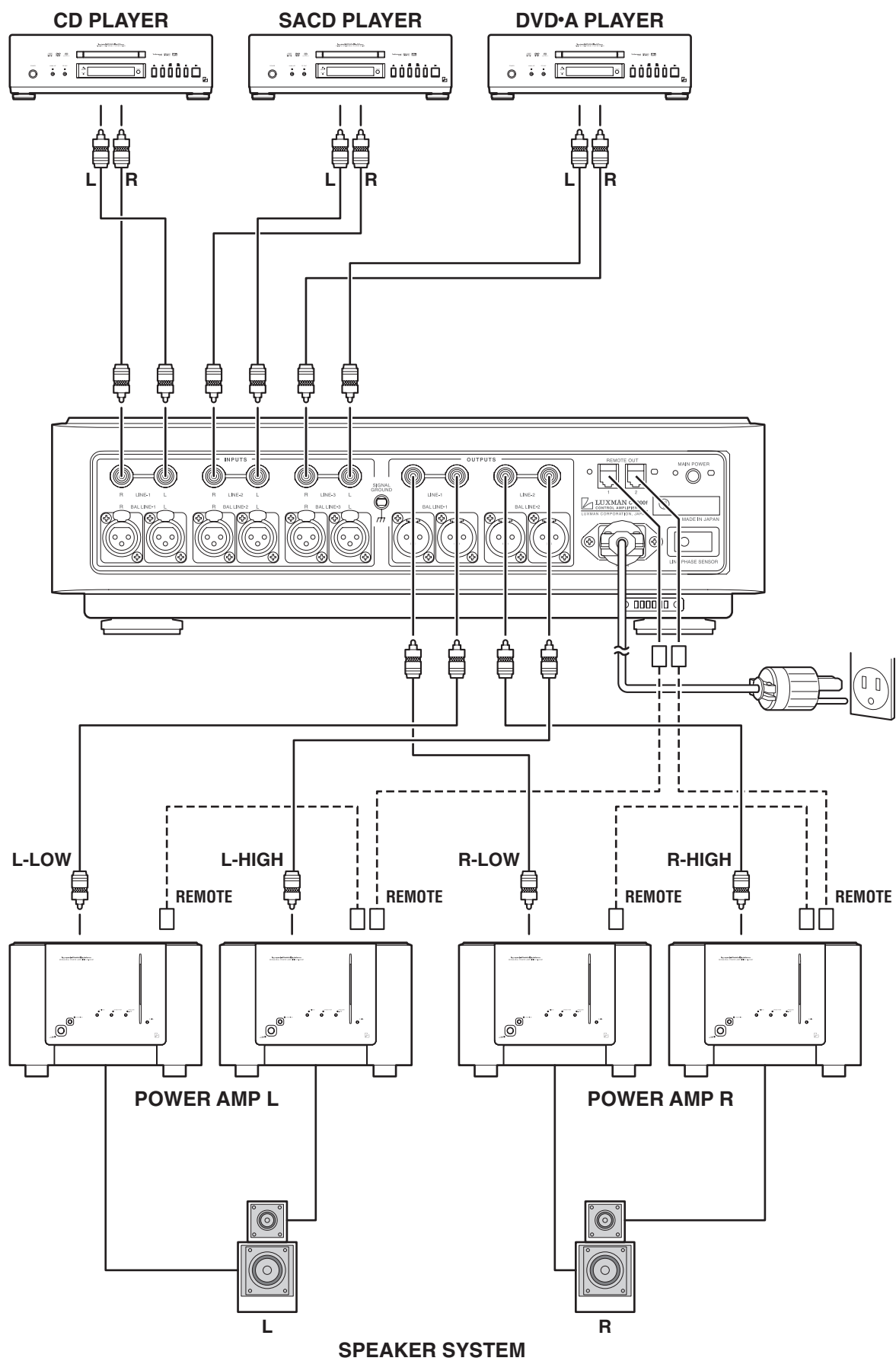
リモート出力端子は2系統ありますが、どちらも同じ信号を出力しますのでお好みでお使いください。

専用リモートケーブルは、ラックスマンのコントロールアンプとパワーアンプの接続以外に使用しないでください。本機のリモート出力がショートされるような端子に接続すると故障の原因となります。

過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入出力機器を接続する場合は、本機のメイン電源スイッチを OFF にするか本機をスタンバイ状態にしてください。また、本機に接続する入出力機器の電源も OFF にしてください。接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機および入出力機器を動作状態にしてください。

接続図

バイアンプ・ステレオ再生



接続方法／バイアンプ・ステレオ再生

入力端子と CD プレーヤーなどの入力機器との接続

本機の出力モードをバイアンプで使用するとき、本機の入力端子はアンバランスのみ有効でバランス入力端子に接続しても音はでません。

CD プレーヤーなどの入力機器のアンバランス出力端子と本機のアンバランス入力端子の間を、ピンプラグケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

本機に接続する入力機器の出力インピーダンスが十分低い場合は、接続ケーブルの長さを特別気にする必要はありませんが、出力インピーダンスの高い入力機器と組み合わせてご使用の場合は、不必要な高域の減衰を避けるために、できるだけ短い接続ケーブルをお使いになることをおすすめします。

出力端子とパワーアンプなどの出力機器との接続

本機の出力モードをバイアンプで使用するとき、本機の出力端子はアンバランスのみ有効でバランス出力端子に接続しても音はでません。

パワーアンプなどの出力機器のアンバランス入力端子と本機のアンバランス出力端子の間を、ピンプラグケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意し接続してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

アンバランス出力端子の LINE-1 の L 端子が L チャンネルの低域用出力で、LINE-2 の L 端子が L チャンネルの高域用出力になります。同様に、LINE-1 の R 端子が R チャンネルの低域用出力で、LINE-2 の R 端子が R チャンネルの高域用出力になります。

L チャンネルと R チャンネルの高域用出力である LINE-2 の L 端子出力と LINE-2 の R 端子出力は、リモコンのプリセット操作で 1dB ステップ最大±6dB の音量調節ができます。

リモート出力端子とパワーアンプとの接続

B-1000f などラックスマンのパワーアンプのリモート入力端子と本機のリモート出力端子をパワーアンプに付属している専用リモートケーブル（極性はありません）で接続します。

これにより、本機のオペレーション・スイッチに連動して、パワーアンプの電源を ON/OFF することができます。

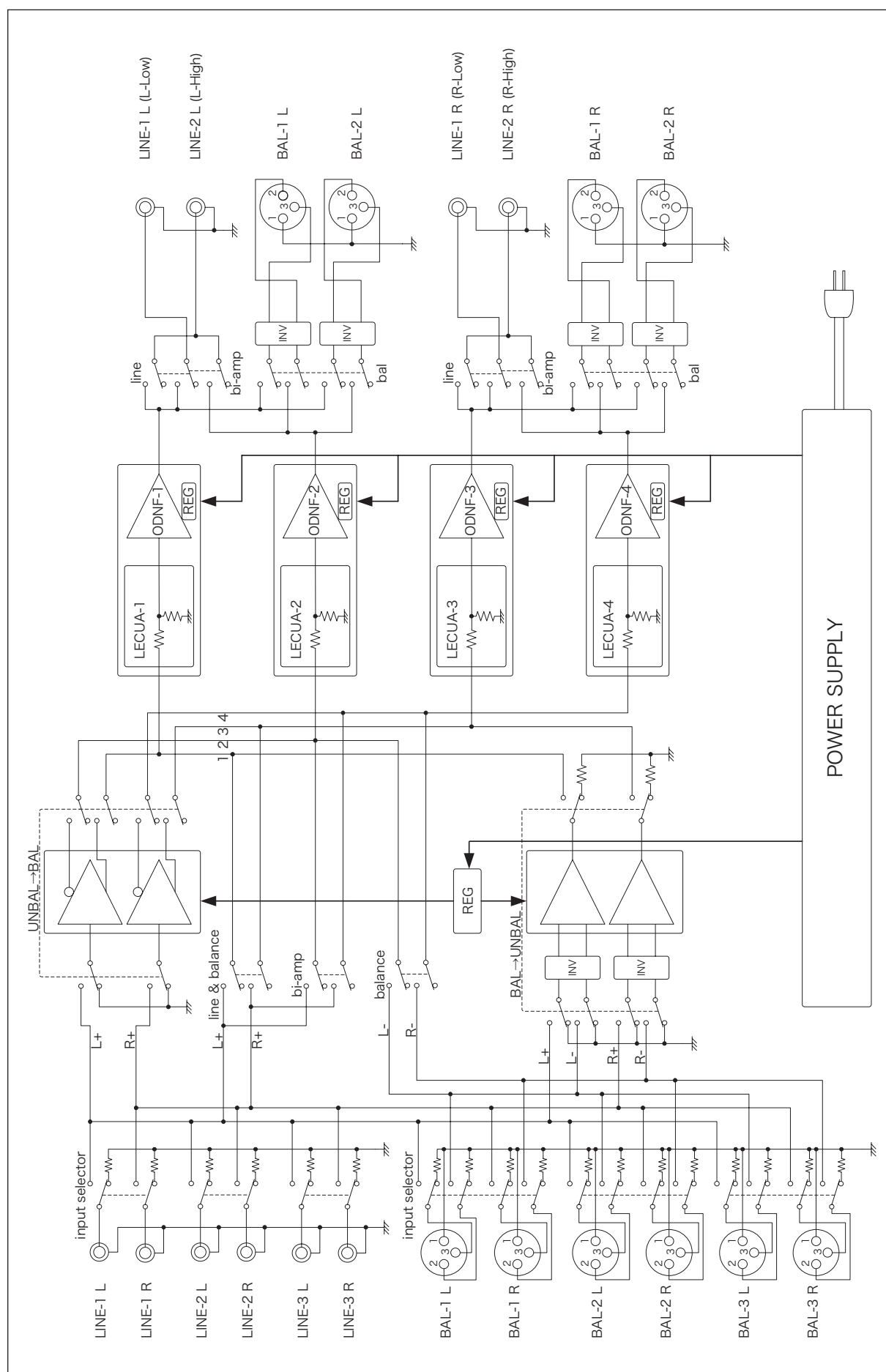
B-1000f のようなモノラル・パワーアンプの場合は、2 系統ある本機のリモート出力端子 1、2 と L チャンネルのどちらかのパワーアンプのリモート入力端子と R チャンネルのどちらかのパワーアンプのリモート入力端子と接続します。次にチャンネルごとに本機のリモート出力端子と接続したパワーアンプのリモート出力端子ともうひとつのパワーアンプのリモート入力端子を接続します。

リモート出力端子は 2 系統ありますが、どちらも同じ信号を出力しますのでお好みでお使いください。

専用リモートケーブルは、ラックスマンのコントロールアンプとパワーアンプの接続以外に使用しないでください。本機のリモート出力がショートされるような端子に接続すると故障の原因となります。

過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入出力機器を接続する場合は、本機のメイン電源スイッチを OFF にするか本機をスタンバイ状態にしてください。また、本機に接続する入出力機器の電源も OFF にしてください。接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機および入出力機器を動作状態にしてください。

C-1000f BLOCK DIAGRAM



規 格

入力感度	LINE	334 mV / 1V 出力・1kHz・負荷 50 k Ω / GAIN 9.5 dB
	BAL LINE	334 mV / 1V 出力・1kHz・負荷 100 k Ω / GAIN 9.5 dB
最大出力	LINE	4.1 V / 1 kHz・負荷 50 k Ω ・歪 0.1%
	BAL LINE	8.2 V / 1 kHz・負荷 100 k Ω ・歪 0.1%
入力インピーダンス	LINE	50 k Ω / 1 kHz
	BAL LINE	100 k Ω / 1 kHz
	選択されていないLINE	33.5 k Ω / 1 kHz
	選択されていないBAL LINE	67 k Ω / 1 kHz
出力インピーダンス	LINE	510 Ω / 1 kHz
	BAL LINE	1020 Ω / 1 kHz
全高調波歪	LINE	0.0017 % / 20 Hz ~ 20 kHz・1 V 出力・負荷 50 k Ω
	BAL LINE	0.0007 % / 20 Hz ~ 20 kHz・1 V 出力・負荷 100 k Ω
周波数特性	LINE	+0, -0.1 dB / 5 Hz ~ 20 kHz / 1V 出力・負荷 50k Ω +0, -3.0 dB / 1 Hz ~ 118 kHz / 1V 出力・負荷 50k Ω
	BAL LINE	+0, -0.1 dB / 5 Hz ~ 20 kHz / 1V 出力・負荷 100k Ω +0, -3.0 dB / 1 Hz ~ 118 kHz / 1V 出力・負荷 100k Ω
S/N 比	LINE	124 dB (IHF-A) / 負荷 50 k Ω ・歪 0.1%・-71dB
	BAL LINE	127 dB (IHF-A) / 負荷 100 k Ω ・歪 0.1%・-71dB
付属品	電源ケーブル リモコン RA-10 単 4 乾電池 × 2 オーナーズマニュアル 保証登録書 安全上のご注意	
消費電力	28 W (電気用品安全法による規定)	
	2.3 W (スタンバイ時)	
電源電圧	AC 100 V (50/60 Hz)	
最大外形寸法	440 (W) × 134 (H) × 429 (D) mm	
重量	23 kg	

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの販売店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。が、ご容赦ください。

C-1000fの保証期間は、購入日より起算して5年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。

保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。後日、保証書を発送させていただきます。

保証期間内の修理お申し付けの節は、必ず弊社発行の保証書を添えて下さい。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けいたします。

修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記表、および併用機器の取扱説明書をご覧ください。ひと通りご確認ください。

故障の原因がわからない場合は、弊社サービスセンター、もしくはお求めの販売店へお問い合わせください。

なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などを載くことがあります。

症 状	原 因	対 策
メイン電源スイッチを押しても電源が入らない。 スタンバイ・インジケータが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがAC コンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 電源プラグがAC インレットから外れているか、確実に差し込まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをAC コンセントへ確実に差し込む。 電源プラグをAC インレットへ確実に差し込む。
オペレーション・スイッチを押してもオペレーション・インジケータが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> メイン電源スイッチがOFFになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> メイン電源スイッチをONにしてスタンバイ・インジケータを点灯させる。
電源が入り、動作状態になり、オペレーション・インジケータも青色に点灯するが、音がでない。	<ul style="list-style-type: none"> 接続した入力端子と選択した入力設定があっていない。 接続した出力端子と選択した出力モード設定があっていない。 接続が確実に行われていない。 ボリューム・コントロールもしくはパワーアンプのアッテネーターが絞りが切られている。 ミュート状態になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> リアパネルの接続した入力端子もしくは音の聞きたい入力端子と同じ入力表示になるように入力設定を合わせる。 リアパネルの接続した出力端子もしくは音の聞きたい出力端子と同じモード・インジケータが点灯するように出力モード設定を合わせる。 接続を確実に行う。 ボリューム・コントロールもしくはパワーアンプのアッテネーターをお好みの音量に調節する。 リモコンにあるミュート・スイッチを押してミュート状態を解除する。
音はでるが、音量が小さい。 片チャンネルだけ音量が小さい。	<ul style="list-style-type: none"> プリセットにより音量が絞られている。 パワーアンプのアッテネーターがONになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> プリセットをお好みの音量に調節しなおす。 アッテネーターをOFFにする。
ハム音 (ブーン、ジーというノイズ) がでる。	<ul style="list-style-type: none"> 接続ケーブルのアース側が接触していない。 他機器の電源トランスからの誘導ノイズを受けている。 入出力ケーブルとスピーカーケーブルが電源ケーブルに接近しすぎている。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続を確実に行う。 他機器から離して設置する。別系統のコンセントにつなぎかえる。 入出力ケーブルとスピーカーケーブルを電源ケーブルから離す。

リモコンの名称と用途

